

寅さん歩 その 14

東京に こんなところ-20



平野 武宏

首都東京は「徳川幕府の江戸から明治維新へ、そして関東大震災・太平洋戦争の被災で壊滅から復興、1964年（昭和39年）の東京オリンピックによる街並み・交通網の再整備」と時代と共にその姿を変えています。そして2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、更に近代的な姿に生まれ変わろうとしています。6年前に移住して「寅さん歩」で東京を歩き回っている寅次郎は「東京に こんなところもあるのだ!」と思わせる場所に出会い、感動し、シリーズとして取り上げ、紹介しています。東京都は区部（東京23区）、多摩地域（市部、西多摩郡）、島嶼部（とうしょぶ）（伊豆諸島・小笠原諸島）の三地域で成り立っています。東京都なのに訪問していない伊豆諸島の八丈島を初めて訪問する機会があり、別の姿の東京都を知った寅次郎でした。

〔八丈島の位置〕

東京の南方海上約290キロにあり、もっと南国かと思っていきましたが、宮崎県と同じ緯度で平均気温は約18℃、雪や霜の日はほとんどなく、西風や雨が多いのが特徴とのこと。竹芝桟橋から大型客船で約10時間、羽田空港からジェット機で約55分です。

寅次郎は大型客船「橘丸」で御蔵島・三宅島経由で八丈島町三根の底土港に上陸しました。

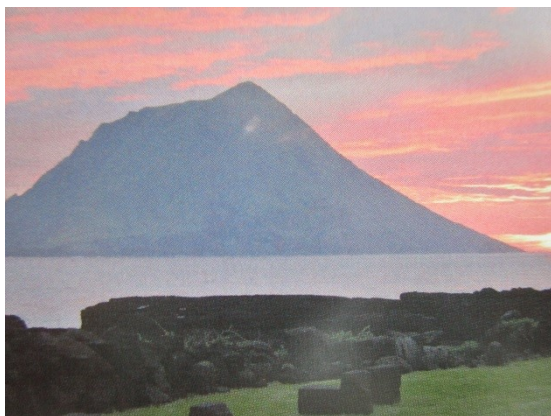


[漂流・漂着・流人]

縄文時代の人々が住んでいた遺跡がありますので、黒潮に乗って中国大陸や南方から漂流・漂着し、島にたどり着いたと思われます。源為朝やその息子が上陸したとの伝説も残っています。

江戸時代に「八丈島に行く」ということは、「遠島（島流し）の刑」を申し渡されることでした。関ヶ原の戦で敗れ、薩摩に逃れていた**宇喜田秀家**は捕えられ、切腹をのがれ、八丈島への島流し第一号です。明治2年(1869年)赦免され、直系の者は戻り、加賀前田氏の援助を受け、板橋に土地を与えられました。数年後には島に戻り、子孫の家系が現在も秀家の墓を守っているとのこと。最後の流人は北方探検で知られる旗本 近藤重蔵の息子で明治13年(1880年)赦免されています。隣にある八丈小島が見渡せる南原千畳敷に宇喜田秀家・豪姫の像がありました。八丈島へは長男・次男は同行しましたが、正室の豪姫（前田利家の娘）は許されず、離れ離れになりましたが、島の人々はこの場で再会させています。あいにく、八丈小島のとっぺんは雲に覆われていました。

（夕焼け写真は観光パンフレットから引用）手前の溶岩は八丈富士の噴火で流れ出たものです。八丈島は東山(三原山)と西山(八丈富士)の二つの火山が接合したひょうたん型の島で、気象庁火山活動ランクCの活火山、最後の噴火は慶長10年(1605年)です。



〔黄八丈〕

黄八丈は八丈島に伝わる草木染めの絹織物です。「黄八丈めゆ工房」(写真下左)を訪問して学びました。古くは都からの流人によって絹織物の技術がもたらされ、寛永年間にはタブの木の樹皮を使った鳶色の織物が織られ、寛政年間には現在の黄八丈に使われている染色技術が完成されたといわれています。稲作が出来ない島の幕府への年貢として納められていました。蚕糸により紡ぎ糸が作られ、黄は八丈カリヤス(コブナグサ)、茶はタブの木の樹皮、黒はシイの樹皮の煮汁を使い、媒染に椿の木の灰や泥を使っていると知りました。絹織物の長さが8丈(約3m)であることが名の由来とのことです。



写真下は「めゆ工房」の隣にある「黄八丈工芸館」で石がおもりとなっている唯一残存する織り機を使った織りの実演です。



〔民俗芸能〕

江戸時代に幕府御用船を管理する職にあった服部家の屋敷跡では郷土芸能である「櫛立踊り」（写真下左）と「八丈太鼓」（写真下右）の実演が行われています。衣装はいずれも黄八丈です。



「櫛立踊り」とは江戸時代に流人や漂流者、江戸と八丈を往復した御用船の乗組員により伝えられた各地の唄や踊りを島人が八丈ならではの盆踊りに綴り合わせたもの。踊りには「昔踊り」とも言われる「場踊り」と若者に人気の「手踊り」があり、かつては中秋の名月や後の月見にも踊りました。

今回は宮崎、栃木、茨城、千葉、神奈川、三重、京都、新潟、高知、鹿児島、東京、広島の手踊り 12 種類が披露されました。八丈太鼓と共に保存会により島の民俗芸能として継承されています。櫛立とは地名です。

〔八丈の植物〕

服部屋敷跡には樹齢 700 年の「大ソテツ」がありました。ソテツの花は「御赦免花」ともいわれ、花が咲くと、流人に御赦免があり、島を離れることが出来るとの言い伝えがあるそうです。今年は咲いていました（写真下右）。観光案内のお姐さん「今、

台風が来ているが、お客さんたちは必ず無事に東京に戻れる」と太鼓判。





パッションフルーツの木



ガジュマルの木



ヤシは背の低いビローヤシ

亜熱帯を思わせるブーゲンビリア→



道路の脇に咲くあじさいはほとんどが花の小さな「がくあじさい」で、華やかさよりひっそりとした寂しさを感じました。

〔玉石垣〕

ふるさと村には島の古い住居(身分の高い人の住居)が保存されています。玉石垣とは長年にわたって波にもまれ丸くなった玉石を流人達が海岸から一つ一つ運んで積み上げたものです。



〔郷土料理〕 島の材料を使った郷土料理です。



鍋の麦雑炊をご飯にかける

ミルクしゃぶしゃぶ鍋

島の明日葉やマグサを食べ、健康に育ったジャージー牛が放牧されています。明日葉は生命力のある野菜として、天麩羅やおしたしにして人間も食べています。八丈島のくさは匂いがソフトとのことですが、寅次郎、遠慮しました。

〔こぼれ話〕

- ・八丈島の住所 〒100-1511 東京都八丈島町・・・
車は品川ナンバー、でも電話局番は 0499 なぜ？
(参考：東京 23 区は 03、多摩地域は 042、千葉県は 043、
埼玉県は 049)
- ・島の人の東京往復は朝、飛行機で行き、帰りは東京の夜景を見ながら船で翌朝に帰るのが多いとのこと。安い船室では 1 枚 100 円の毛布を 2 枚借りて、上下に引くのが通とか。
- ・島の自慢のひとつは渋滞がないこと。信号が少ないこと。
- ・観光案内のお姐さん東京のことを「本土」と言って、すぐに言い変えたのが少し気になりました。

好天時の大坂トンネルからの眺望です(写真右)

寅次郎、これで伊豆大島、八丈島に上陸しました。

今後、東京都島嶼部の制覇を目指します。

伊豆大島は寅さん歩 その 11 江戸・東京の祭-45
(花の祭-9)を参照ください。



次回は 東京の学食めぐり-23です。

平野 寅次郎 拝